

『祝福に満ちた教会』使徒の働き 2章 37～47節 2016.5.15(ペンテコステ礼拝説教より)

『…毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事とともにし、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。』
使徒2:46～47

◆先日、教会裏の高森小の教頭先生が来られ、「父兄の方から、教会に子供たちが行っているようだが、中で何をしているのか気になる…と言われたので確認に」とのこと。子供会の内容や、大切なことを伝えることが出来た。教会とはそもそも何なのか？信じた者たちは、この世でどう生きるのか？その祝福の内容は？

◆ペンテコステの日、ペテロは淡々と語った「あのイエスは神だった！そのイエスをあなた方は十字架につけた！しかし約束通りイエスは甦り、見ての通り信じる者に聖霊を注がれた」と。人々は『心刺され、どうしたら良いのか(37節)』と問うた。聖霊は豊かに働かれ、彼らは自分の罪が示され、悔い改めへと導かれた。祝福への第一歩は自分の罪に気づくこと！

◆主が言われた「躓きは避けられない(マタイ 18:7)」の「躓き(スキャンダロン)」とは、「罾の餌、感情を害させ、不信仰・墮落へ誘惑するもの」の意。単に小石程度でなく、私たちを神から引き離し、互いの関係を壊し、人生を滅ぼしてしまうほどのもの。聖霊は、神の子たちを守るために、その自分の罪に気づかせ、健全な道へ悔い改めさせる(方向転換させる)！

◆そうして救われた者たちは、①教えを守り、②交わり、③パンを裂き、④祈りをしていた(41～42節)。「堅く守り」とは「執着する」の意。主に結ばれる者は、どこまでも御言葉と神の愛、赦しと平和にこだわる！そして、助け合い、支えあい、励まし合う！神に似せて創られた私たちは、邪魔さえしなければ、神から与えられ、誰もが持っている優しさ、思いやりで隣人を助け・癒し・元気にすることができる。聖霊なる神は、人の心を意固地にさせ、素直にさせない罪(自己中心)を捨てさせて、神と人とを愛する者へと造り変えてくださる！そして聖餐の意味(そこまでして赦された！こんなにも愛されていた！)を毎日感謝した！そして祈りを通して、主と心通い合う関係を確かにされた！

◆そんな者たちの群れである教会は「…すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加え(使徒 2:47)」られた！教会外の人たちを魅了し、神の愛、罪の赦し、喜びを分かち合う交わりの中へ、多くの人々が集まって来たという。「かき集めた」のではなく「駆け集まって来た」のである。

★のぞみ教会が、恵みを分かち合い一致して祈り、教会内外に平安と笑顔を広げられますように。